

作文授業における引用技術習得を支援する手法の提案

山口昌也(国立国語研究所)

北村雅則(名古屋学院大)

■ 概要

● 作文支援システムTEachOtherS

- Web ベースの学習者向け作文作成支援システム
- 学習者, 教師, TEachOtherS が互いの知識を教えあうことにより, 学習者の効果的・自発的な作文技術習得を目指す
- 大学の日本語文章表現の授業での運用を想定

● 本研究の目的

- 引用技術の習得支援手法を提案し, 作文支援システムに導入
- 支援内容
 - 引用時のルールの習得(ブロック引用, インライン引用, 出典, 参照など)
 - 引用元の信頼性の確保
 - 過剰な引用の防止

■ 背景

■ カット&ペースト問題

- レポート課題における剽窃の問題
 - 引用と剽窃の区別できるようにする
 - 引用時のルールを習得できるようにする
- Web ページなど, 電子的なデータの普及で顕在化

■ 電子媒体からの引用

- 安易な引用(内容を吟味せず, 必要以上に引用する)
- 不確かな情報
 - 作成時日時が不明
 - 著者が不明
 - 2次情報, ソースが明らかでない情報

■ 作文支援システムへの引用課題の導入

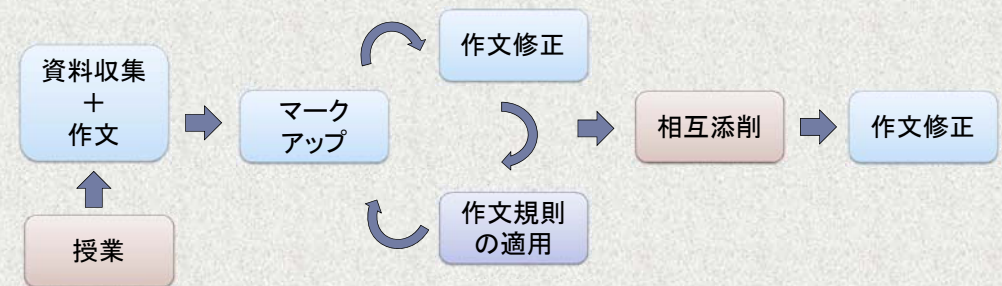
● 「子ども手当」課題

- 課題内容
「平成22年度子ども手当」について説明し, 賛成意見, 反対意見を明記したうえで, 自分の意見を述べる。
- 被験者: 大学1年生3クラス
(1クラス20~30名)
- 授業時間: 各クラス90分2コマ

■ 想定する作文の構造

問題提起
事象説明(引用)
賛成意見(引用)
反対意見(引用)
学習者の私見
私見の理由

● 授業の流れ



● 支援の対象

- 作文規則による作文のチェック
 - 必須記述項目のチェック
 - ブロック引用, 出典のチェック
 - 引用以外の作文量を確保(「学習者の私見」+「私見の理由」100文字以上)
- 相互添削
 - 引用元に対する自己コメント
 - 引用内容と, 自己コメントに対する相互添削(予備実験では未実施)

予備実験 — 作文規則, 相互添削方法の模索 —

引用時のルールの習得

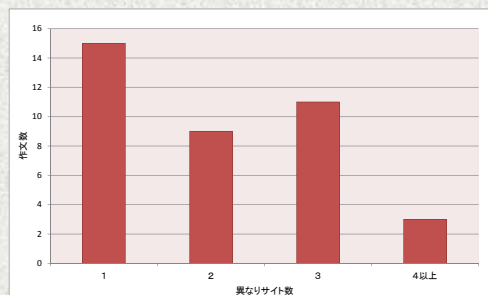
- 出典情報の記述 → 71.4% (40/56)
- 引用部分への参照 → 64.3% (36/56)
- 引用部分への言及 → 96.4% (54/56)
- 引用形式(字下げなど)



- 引用部分と参照数を一致させる
- 参照先の異なり数, 出典数を一致させる

過剰な引用の防止

- 同一文献からのみの引用を避ける
- 引用目的に照らして, 必要以上に広範囲を引用しないようにする



- 引用部分の割合 全体に対して, 平均73.4%
- 教師の作例 55.6%

- 異なりサイトの最小値を設定 (今回の場合は, 2)

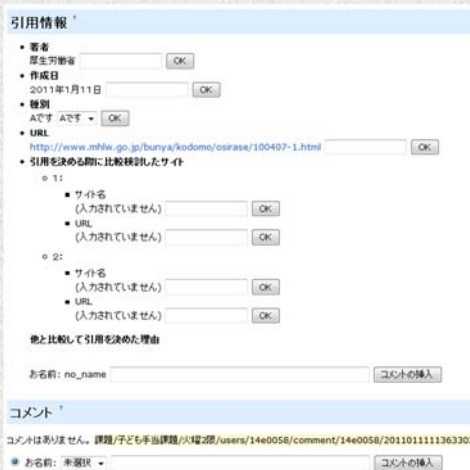
- 全体の作文量に対する, 引用部分の量を決めておく

引用元の信頼性の確保

- 1次情報か否か
- 引用元の種類
- 著者情報
- 作成年月日

- 種別A(公的機関, 企業から発信された文章) 38か所
- 種別B(オンライン参加型の百科事典, 掲示板, ブログ) 34か所

種別Aのほうが信頼性が高いと指導されていたにもかかわらず, 大きな違いがない



- 種別Bを選択した場合は, 確認するための作文規則を作成
- 引用元の評価に相互添削を利用
 - [レベル低] 資料収集時に実施 (資料選択方法の習得に重点)
 - [レベル高] 作文時に実施 (引用自体の改善に重点)

まとめ

- 作文授業において, 引用技術の習得を支援する手法を提案
 - Webデータなど, 電子媒体からの引用を考慮
 - 引用のルールの習得, 過剰な引用の防止, 引用元の信頼性の確保
- 予備実験(「子ども手当」課題)を実施
 - 引用技術習得に必要な作文規則を明らかにした
 - 出典, 引用部分の参照のチェック
 - 引用元の異なり数, 引用部分の量のチェック
 - 引用するサイトの信頼性の確認
 - 「引用」課題における相互添削の導入方法を提案
 - 作文前の資料収集での利用
 - 引用自体の改善に利用